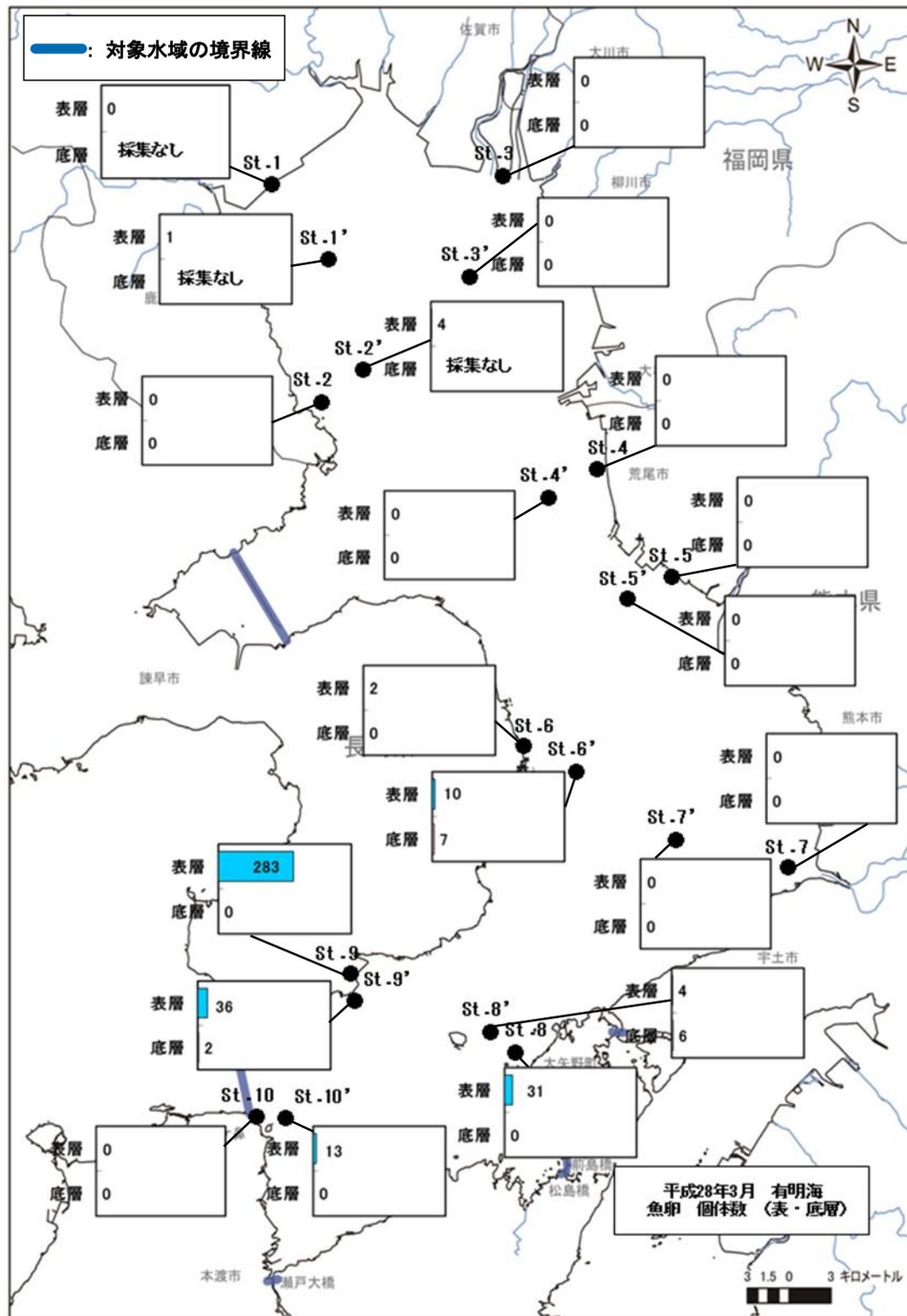


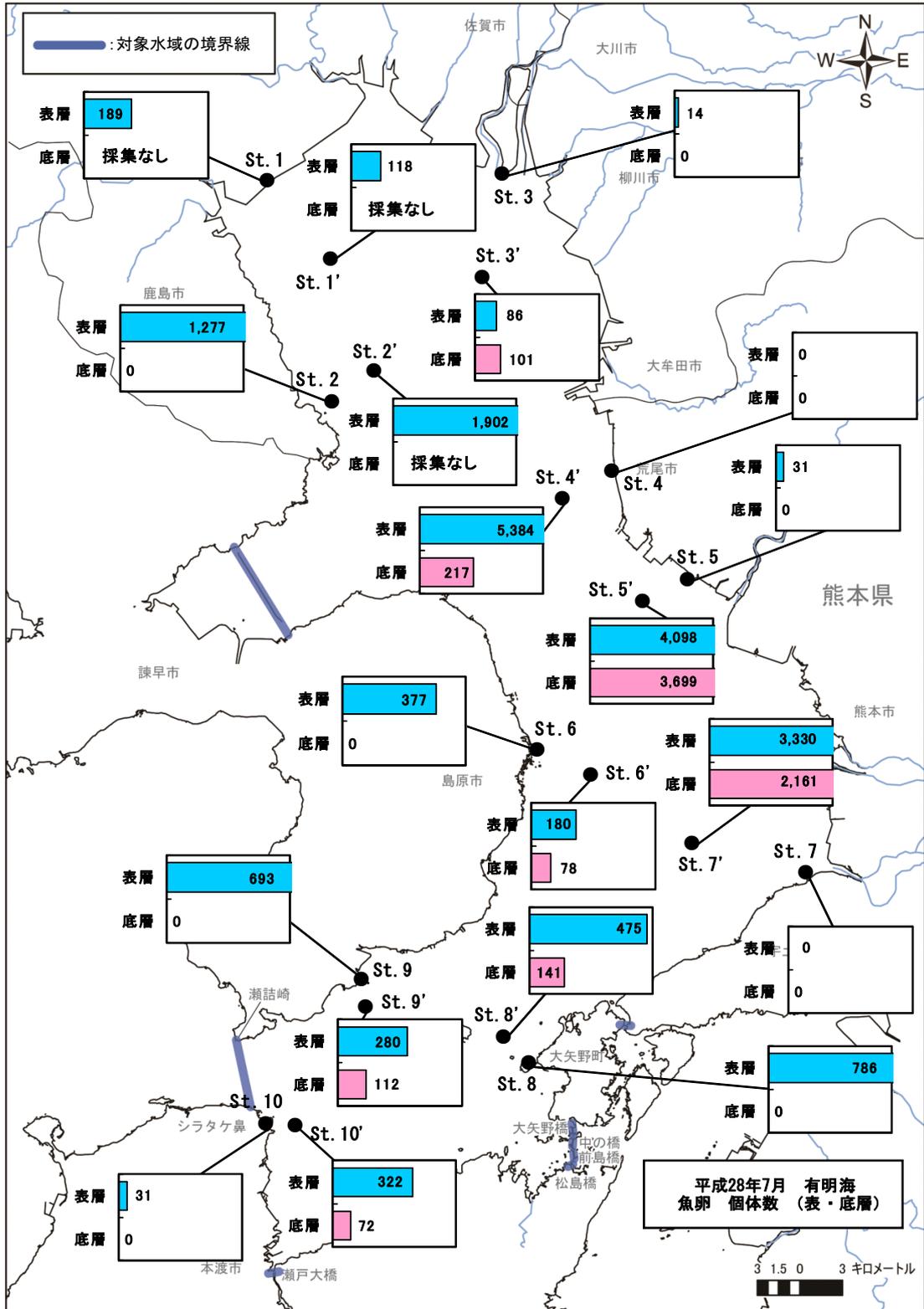
注)「採集なし」は、採集を実施していないことを示す。

図 12(2) 魚卵種数の出現状況 (夏季)



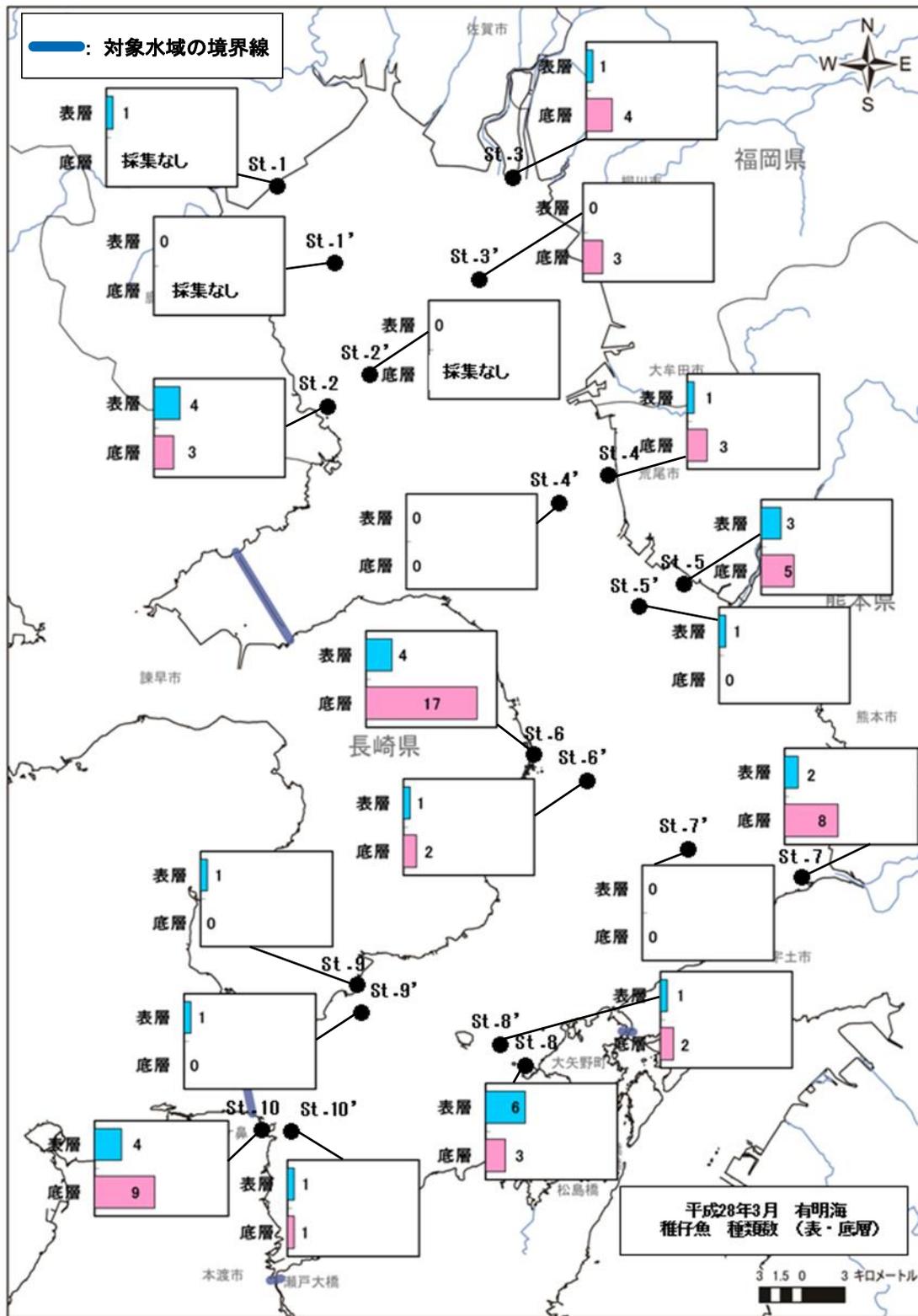
注)「採集なし」は、採集を実施していないことを示す。

図 12(3) 魚卵個体数の出現状況 (冬季 個体数/1,000 m³)



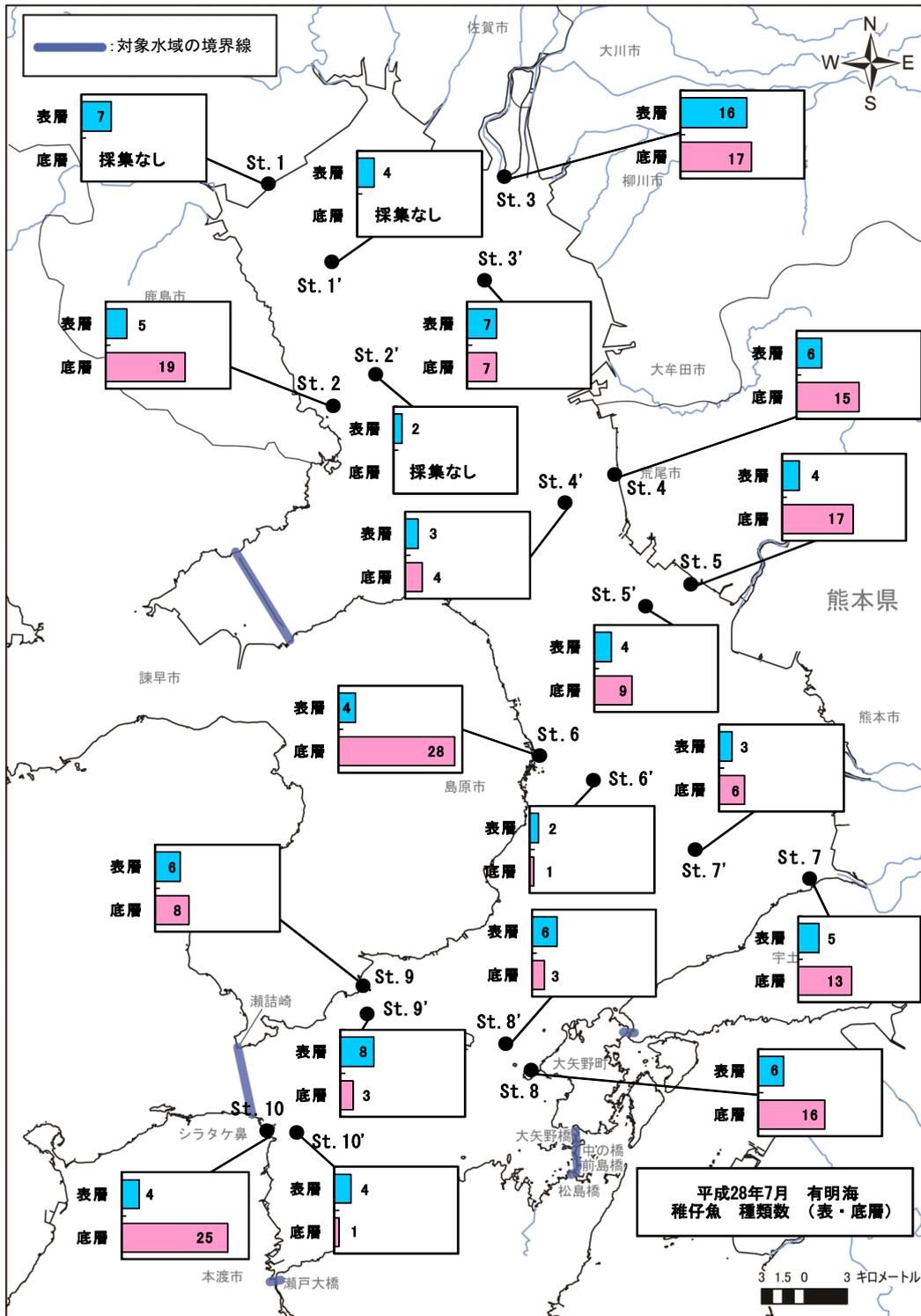
注)「採集なし」は、採集を実施していないことを示す。

図 12(4) 魚卵個体数の出現状況 (夏季 個体数/1,000 m³)



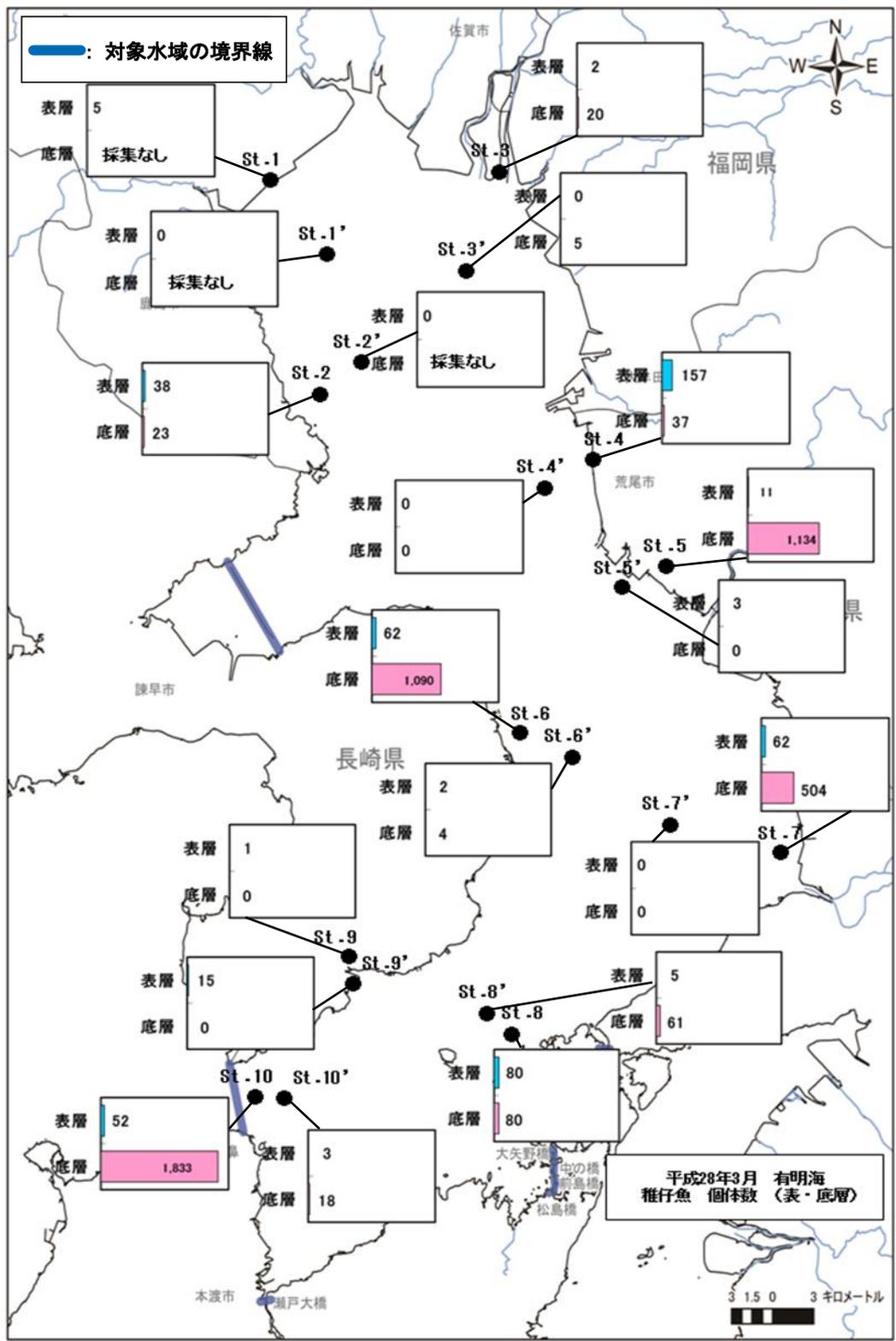
注) 「採集なし」は、採集を実施していないことを示す。

図 12(5) 稚仔魚種数の出現状況 (冬季)



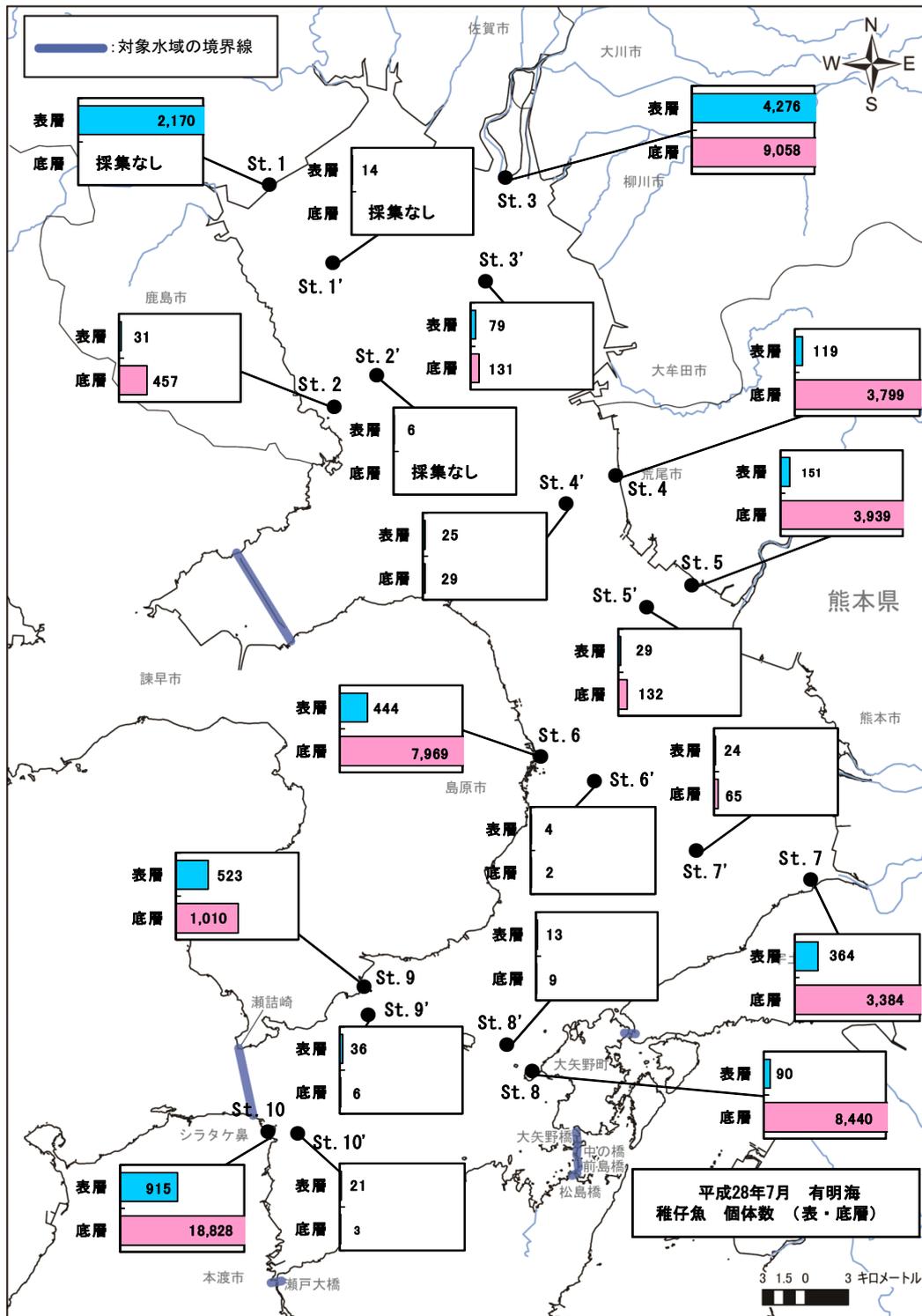
注)「採集なし」は、採集を実施していないことを示す。

図 12(6) 稚仔魚種数の出現状況 (夏季)



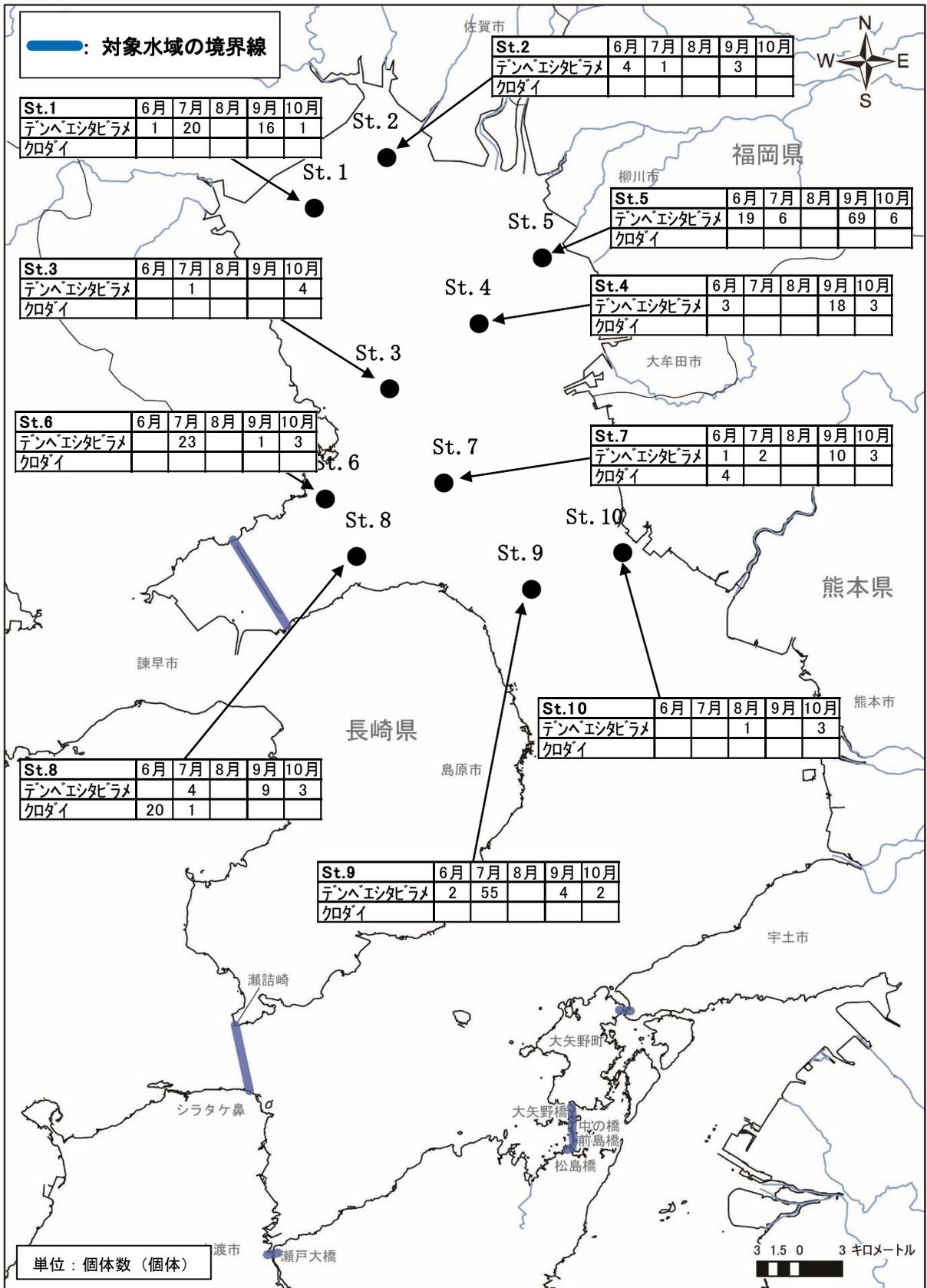
注)「採集なし」は、採集を実施していないことを示す。

図 12(7) 稚仔魚個体数の出現状況 (冬季 個体数/1,000 m³)



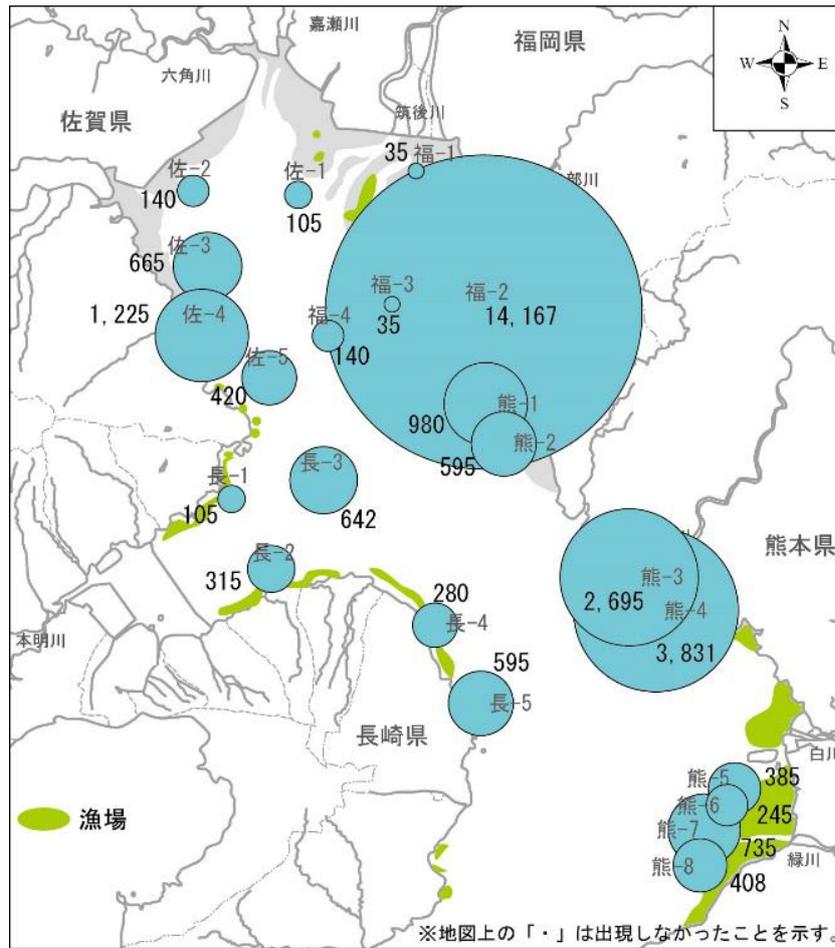
注)「採集なし」は、採集を実施していないことを示す。

図 12(8) 稚仔魚個体数の出現状況 (夏季 個体数/1,000 m³)



出典：環境省（有明海の環境変化が魚類の卵・仔魚の輸送と生残に及ぼす影響の評価調査業務平成21年度報告書）より作成

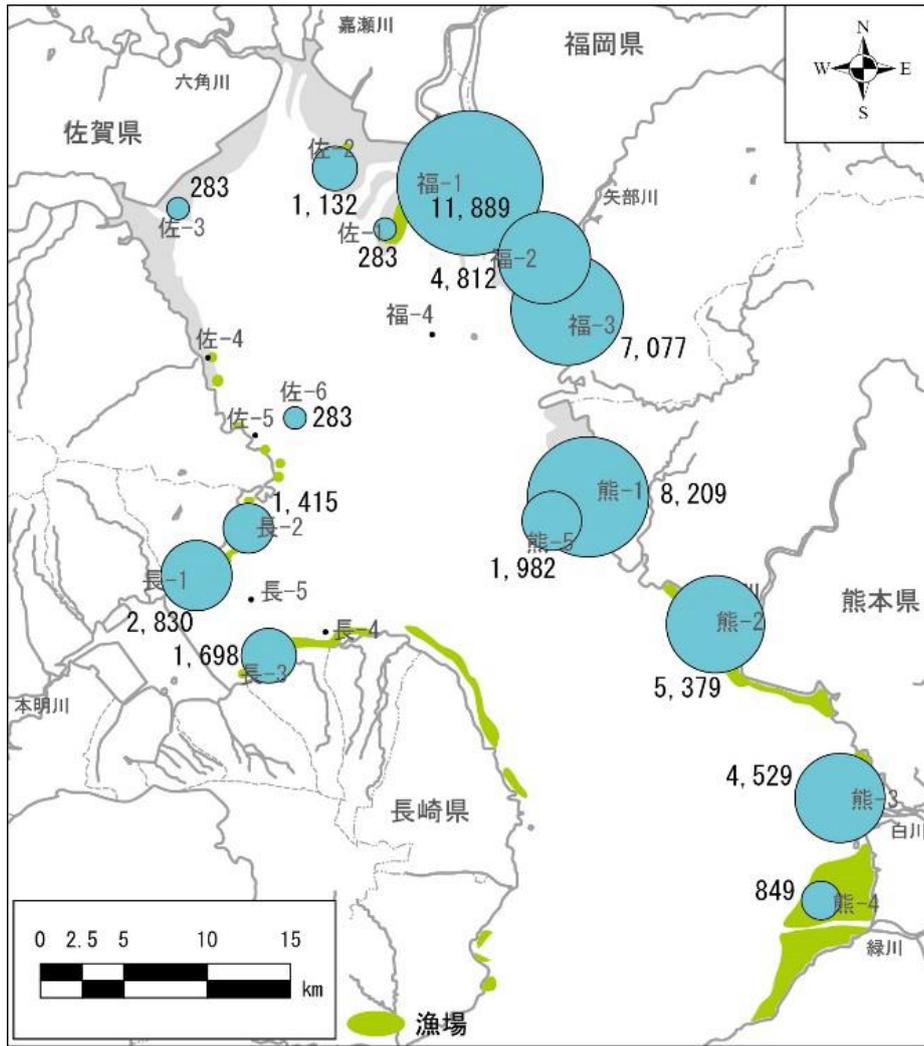
図 14 有明海における仔魚の分布（2007年）



注) 図中に表示している数値は、調査期間中（2015年9～11月）に確認された浮遊幼生の総個体数（個体数/m³）を示す。

図 15 アサリ D 型幼生の分布状況（2015 年 9～11 月の累計）

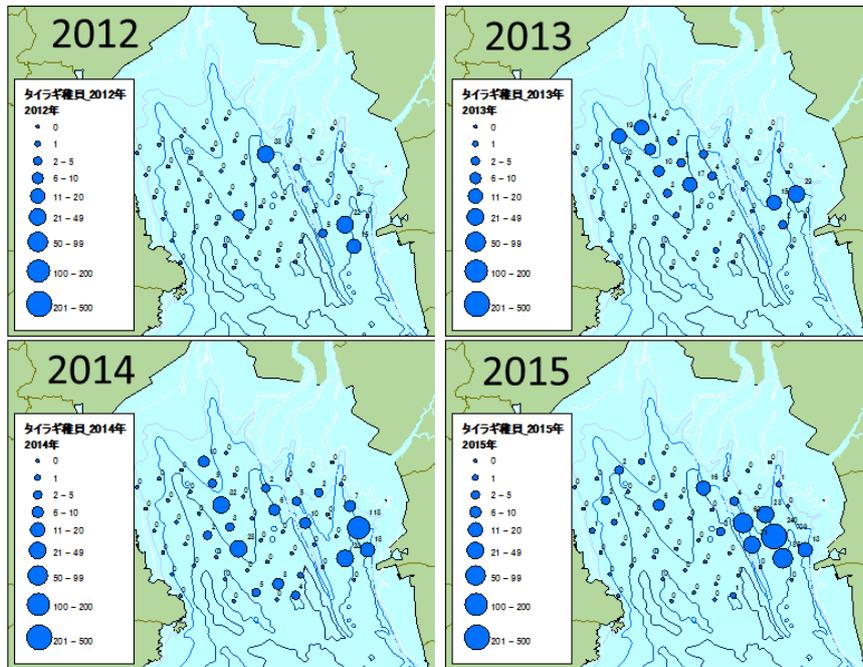
出典：有明海漁場環境改善連絡協議会（2016）「第 22 回有明海漁場環境改善連絡協議会資料」



注) 図中に表示されている数値は、調査期間内（2015年10～12月）に確認された着底稚貝の総個体数（個体数/m²）を示す。

図 16 アサリ着底稚貝の分布状況（2015年10～12月の累計）

出典：有明海漁場環境改善連絡協議会（2016）「第22回有明海漁場環境改善連絡協議会資料」



注) 凡例において、nd (1 個体以下/100m²) は 0 と表示した。

図 17 タイラギ稚貝の分布の推移 (2012~2015 年)

出典：有明海・八代海等総合調査評価委員会(2017)「有明海・八代海等総合調査委員会報告
平成 29 年3月」

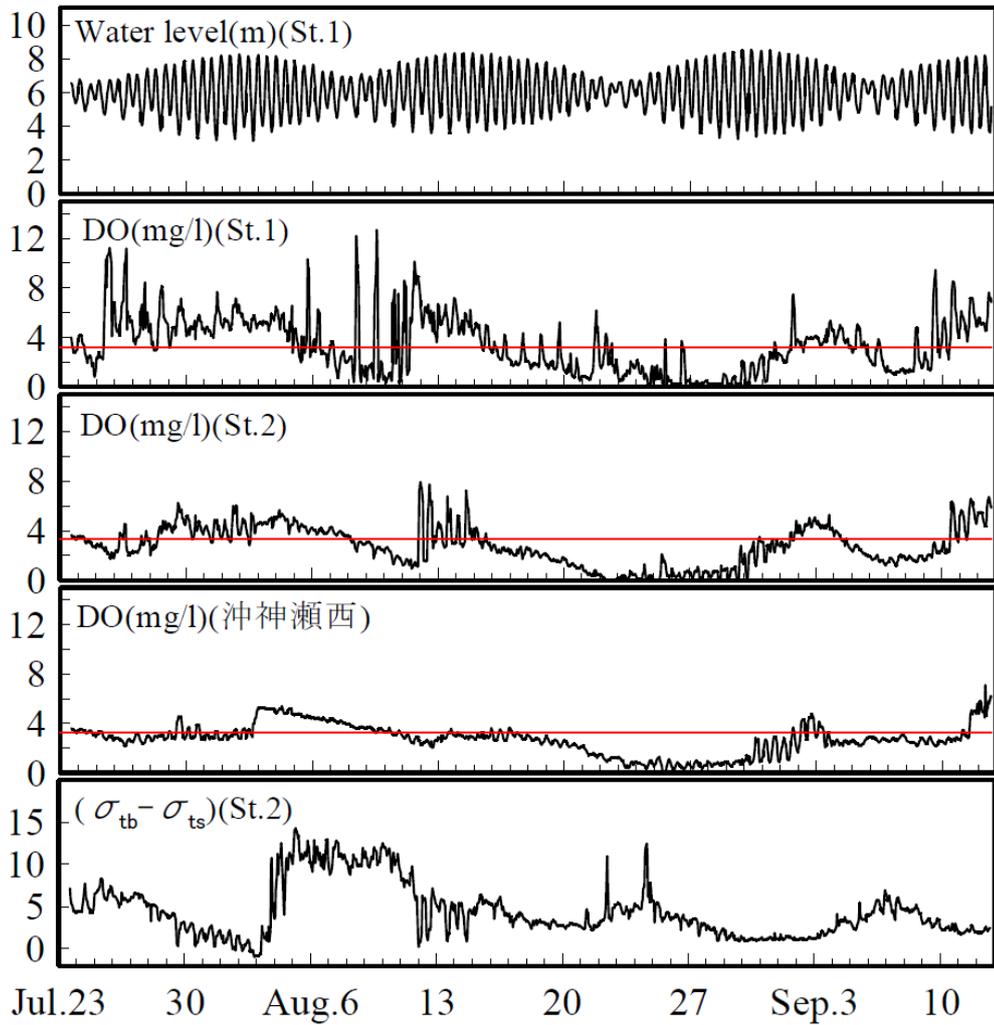
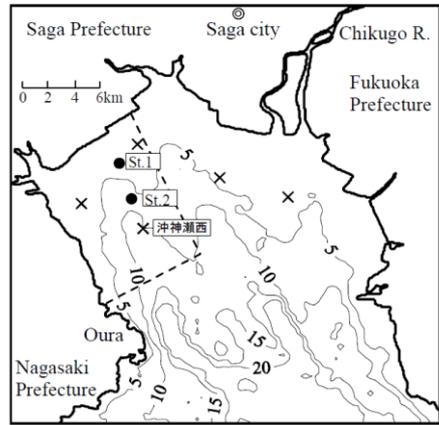


図 18 湾奥部の水位、底層DO等の経時変化 (2007年、海底上0.2m)

出典：石谷哲寛、瀬口昌洋、郡山益実 (2008) 有明海奥部西岸域における底層DOと鉛直拡散係数及び酸素消費率の関係、農業農村工学会全国大会講演要旨集(pp762~763)

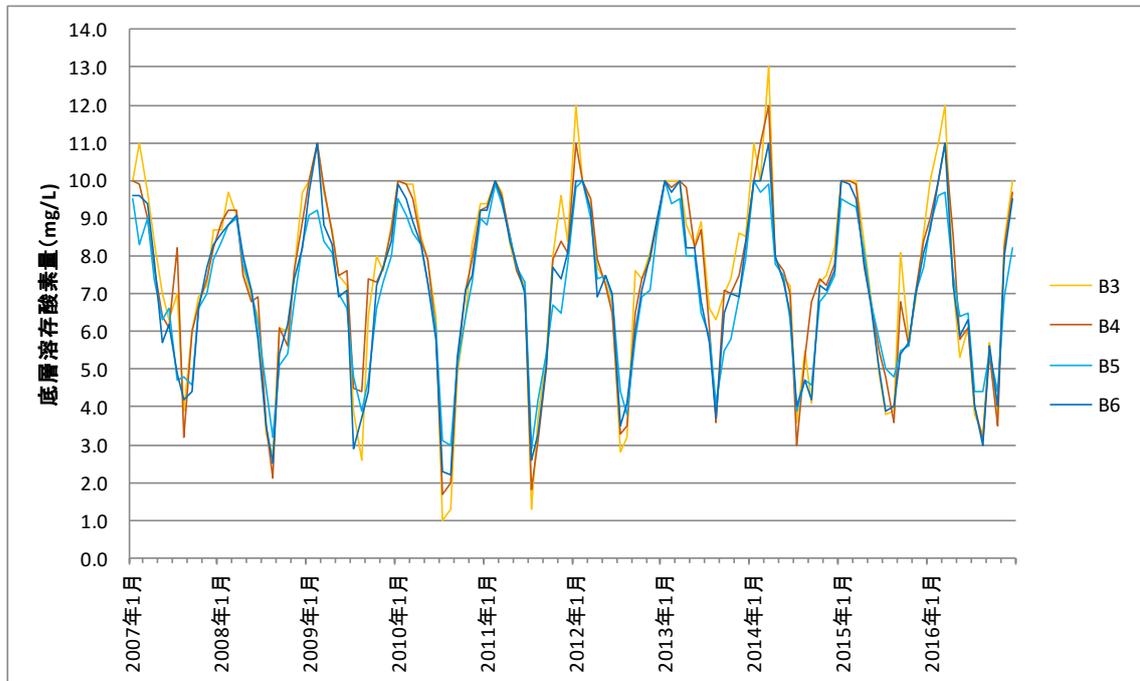
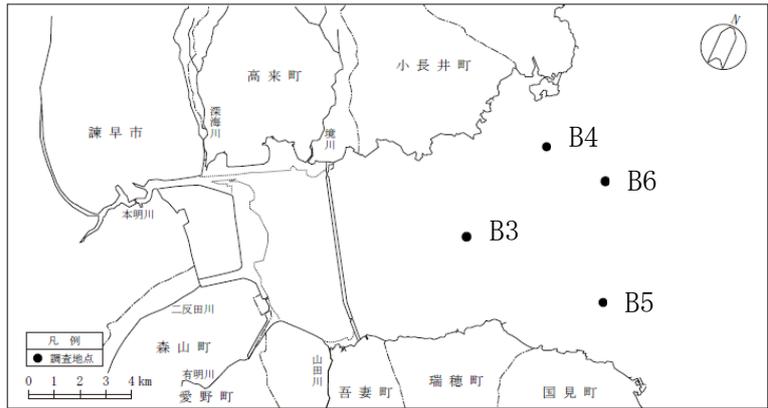


図 19(1) 底層DOの経年変化 (2007年~2016年、月1回調査、海底上1m)

出典：九州農政局 HP 諫早湾干拓事業環境モニタリングデータ等の公表について

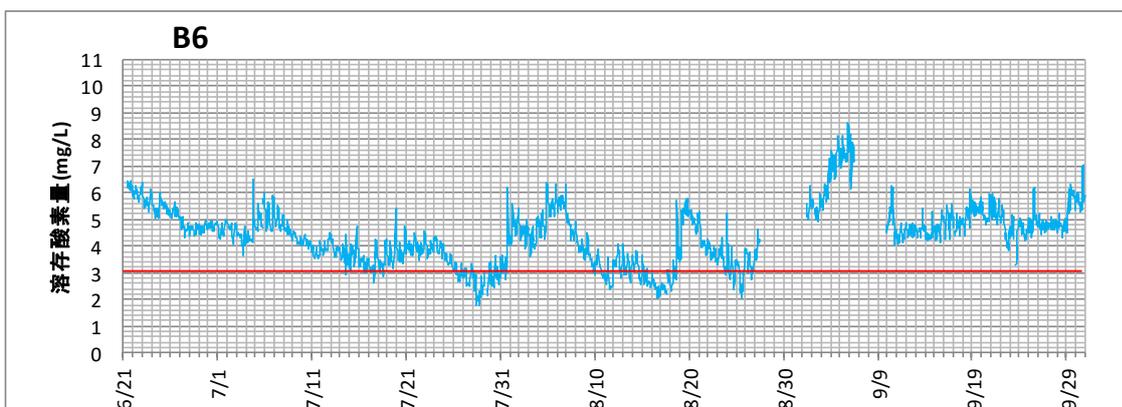
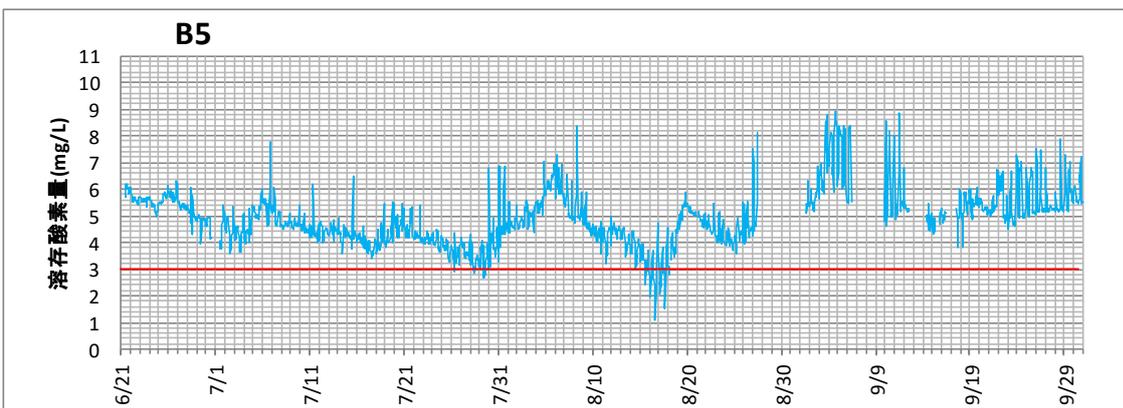
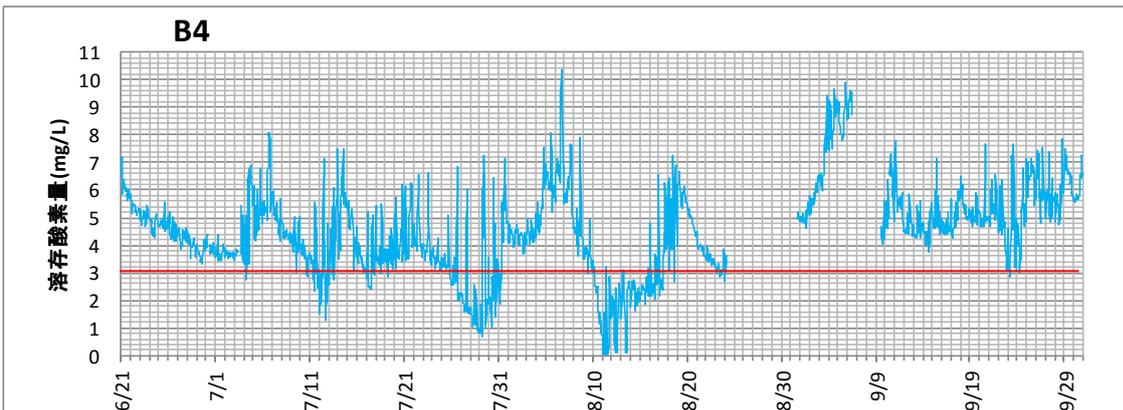
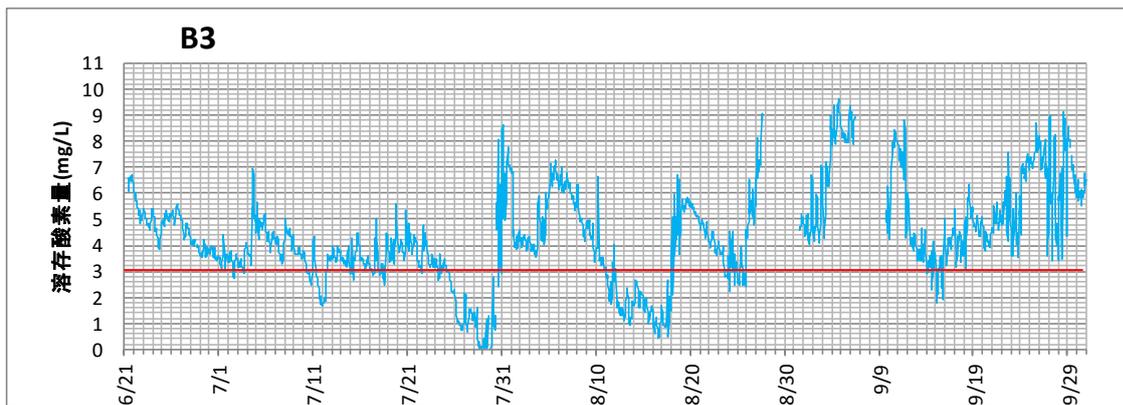


図 19(2) 底層DOの連続測定結果(その1)(2004年、海底上1m)

出典：九州農政局 HP 諫早湾干拓事業環境モニタリングデータ等の公表について

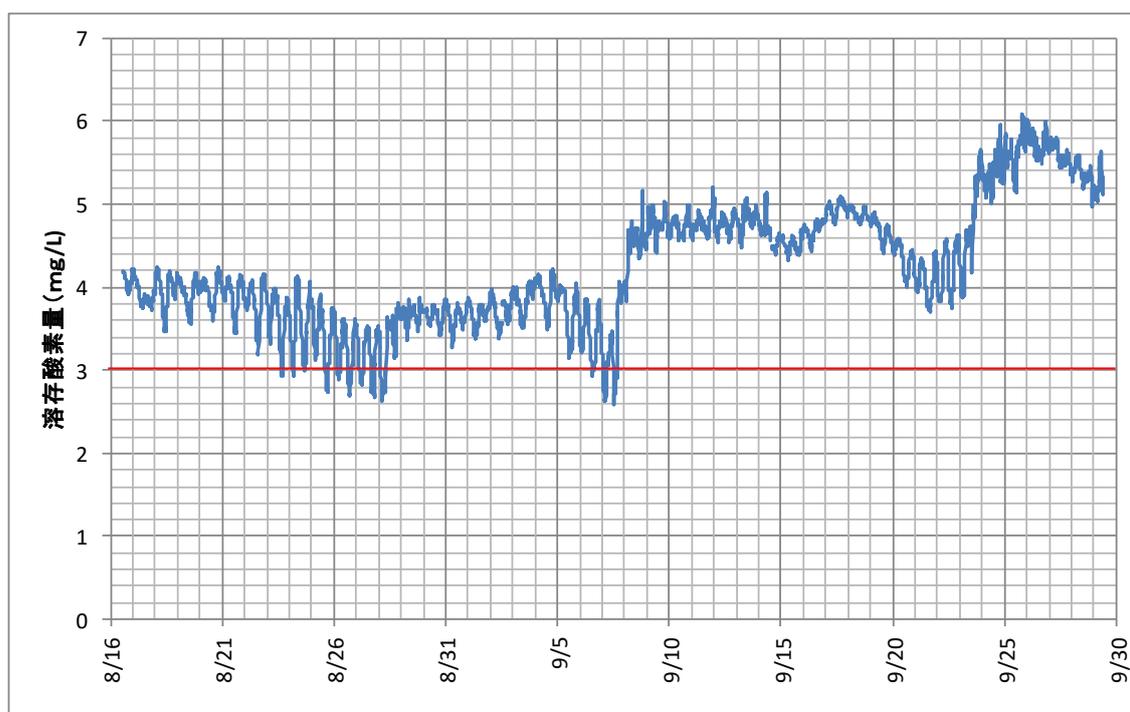
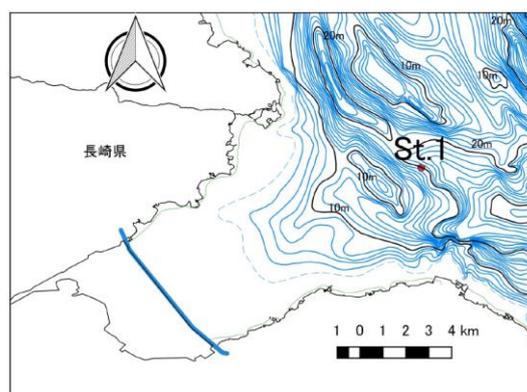
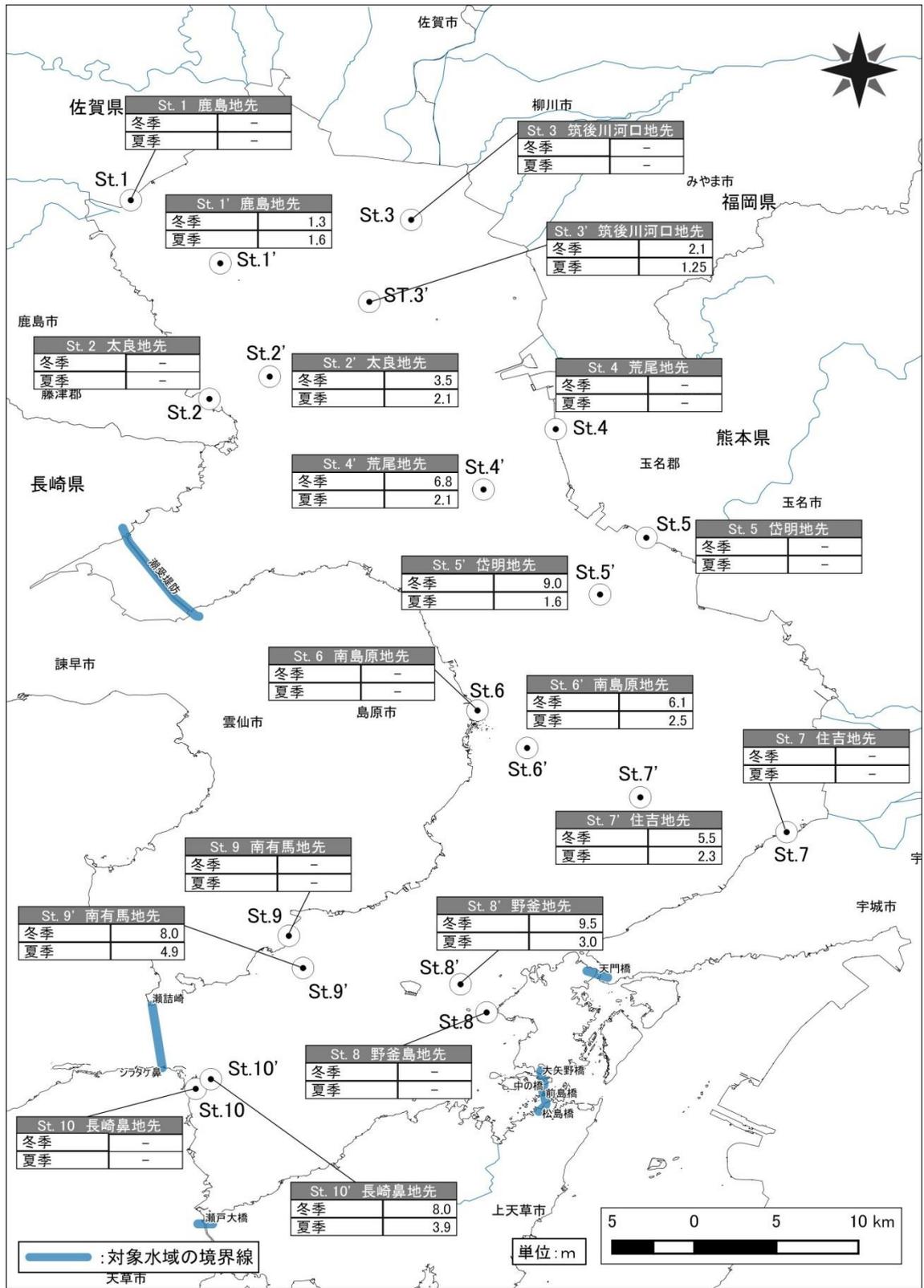


図 20 底層DOの連続測定結果（その2）（2010年、海底上0.2m）

出典：長崎大学水産学部、いであ株式会社(2011)平成22年度有明海生態系回復方策検討調査（生態系機能解明調査）業務報告書



※1)調査実施日：平成28年3月1～7日、7月25～31日

図21 透明度の分布（水質調査結果）